

# 『13期生演奏を楽しむ音楽科』

## ～伝統芸能の魅力 ②小鼓～

日時：2025年12月12日

場所：池田市ナムの広場

講師：久田陽春子・久田杏海



### 【講師プロフィール】

#### 久田陽春子（ひさだ やすこ）

能楽師 大倉流小鼓方 公益社団法人 能楽協会 正会員 重要無形文化財総合指定保持者 日本能楽会会員 能「鞍馬天狗」の子方、花見にて初舞台。大倉流 16 世宗家 大倉源次郎(人間国宝)及び父 大倉流小鼓方 久田舜一郎に師事。

1985年、大阪能楽養成会入会、卒業ののち能「乱」「石橋」を披く。2005年能「道成寺」にて大阪舞台芸術新人賞を受賞。2010年、自主公演「幸祐 陽春子 能の会」にて能「安宅」を披く 全国でも数少ない公式の舞台に出演する女性能楽師として各地で活動。また、能楽の普及および伝統芸能である能楽を守り後世に伝えていくための活動にも力を注いでいる。

夫、寺澤幸祐は観世流シテ方

叔父、久田勘鶴は観世流シテ方

長男(拓海)長女(杏海)各地の能舞台に出演中

#### 久田杏海（ひさだあみ）

能楽師 大倉流小鼓方 平成13年生まれ 大倉流16世宗家・大倉源次郎と祖父・久田舜一郎に師事。

平成15年仕舞「老松」にて初舞台 父は観世流シテ方・寺澤幸祐、母は大倉流小鼓方・久田陽春子 現在、大阪能楽養成会にて研修中

### 【小鼓（こづみ）】

お囃子（おはやし）の楽器の一つで、正式名称を「小鼓（こづみ）」といいます。

楽器を使ってより賑やかに、より厳かに、より情緒的に、曲を盛り上げるのがお囃子です。

「歌舞伎」や「日本舞踊」などで使われる音楽で、「歌舞伎囃子（かぶきばやし）」・「邦楽囃子（ほうがくばやし）」と言われています。

小鼓は、砂時計型の桜の胴に馬の皮を張った日本の打楽器で、能楽や歌舞伎で使われ、左手で「調べ（麻紐）」で締め具を調整し、右手で打つことで「ポン」「チ」「タ」などの多様な音色を出し、演奏の進行を彩る重要な楽器です。湿度や温度に繊細で、唾をつけたり息を吹きかけたりして皮を湿らせ「調子をつける」ことで、独特の響きを生み出します。

## 構造と特徴

胴：桜の木をくり抜き、蒔絵が施された空洞の胴。

皮：胴の両面に馬の皮が張られ、「調緒（しらべお）」という麻紐で締められている。

音色：調べの締め具合や打つ手の強弱、息を吹きかけることで音の高さを変化させる。

## 演奏方法（基本）

構え：左手で調べを持ち、左膝に乗せて右肩に軽く乗せる。

調子付け：裏革に唾液をつけた和紙（調子紙）を貼り、表革に息を吹きかけて湿らせる。

打ち方：右手で指先を丸くして中心を打ち、調べを締めたり緩めたりしながら「ポン」「チ」「タ」などの音を出す。

## 使われる場面

能楽：三拍子の一つとして、演奏の進行を司る要の役割。

歌舞伎・日本舞踊：お囃子（はやし）として、情緒や場面を豊かに演出。

## 繊細さ

湿度や乾燥に非常に敏感で、演奏前後の調子付けが、重要です。使い込むほどに手に馴染み、良い音が出るとされています。

### 【 講義の中から 】

能は、700年前頃より始まり、途切れることなく受け継がれ続いているとの事、凄いですね。

公演では、それぞれが前を向いたままで演奏が始まります。、指揮を執る人の存在は無く、出演メンバーが違えば間の取り方や空気感が変わり、合わせるのが難しくなったりもするのだそうです。場の緊張感が伝わってくるようです。

講義中には、小鼓を片手に受講者の中を回りながら説明をされたり、質問の回答も丁寧に答えておられたのが印象的です。全国の小学校等で要請があれば、普及活動にもみずから関わっているとの事。今日もこの後、九州の小学校へ普及活動に行かれるそうで、大きな荷物を引いておられました。普及活動に力を入れられていることが伝わってきます。

私たちも練習用の小鼓で、自らの声に合わせて小鼓を打つ体験をさせて頂きました。

声のタイミングに合わせて鼓の中心を打つ、簡単そうに見えてかなり難しい。

中々思うようにタイミングが合わせられず、思った以上に繊細で難しそうです。

## 【 感想 】

今日は伝統芸能の魅力、小鼓の講座です。

普段 小鼓とかまったく縁のない生活の中で能楽師久田先生の、お話を聞いて 凄く身近に感じました。小鼓を見せていただいて、詳しく説明を聞きました。小鼓は大変美しかったです。

馬の皮・桜の木・麻・綿などで出来ている小鼓は、すごく繊細で湿度、温度、紐の締め具合によって音が変わり、まるで高度な精密機械のようだと思いました。

鼓を打って音が出るまで、中々難しいそうです。

能の舞台では、小鼓・大鼓・太鼓・笛・謡の順に横に並びます。

その状態で演奏するのですが、その時は合図の言葉をかけることも出来ず、目で合図も出ない様です。

ハヤシ方の掛け声で声の調子とか大きさだけで行うそうです。

かなりすごく難しいようです。

初めての人でも音が出る小鼓で、打つ体験をさせて頂きましたが中々難しいです。

掛け声に合わせてポンッと打てた時は最高に嬉しかったです。

担当 2班 大野・藤林

